

～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便



LET'S VOTE

Vol.05

2023年3月号

発行：地域福祉室

「いのちを守るために、 みんなで選挙に行こう！」

一人のいのちではなく企業や国力ばかりが大切にされてきた政治の犠牲者といえる非正規雇用の方々の深刻な生活問題が見えてきました。

「みなさん派遣なんて知らんところで
生きてらっしゃいますからね。

え、え、ぜひ伝えて下さいよ、
派遣がどんなにひどいかを」

<50代男性Aさん>

Aさんは6人きょうだいで高校生のときに父親が他界し生活保護を受けることとなります。それでも自分の力で大学を卒業し正職員として就職することができましたが、不景気のおおりに受けて30代で会社は倒産してしまいます。そこから正職員として働くことができなくなってしまいました。ハローワークを通じて20もの資格を身につけましたが非正規以外で雇ってもらえるところはありません。「派遣はいったん登録すると抜け出せない。絶対に嫌だ」と思っていたAさんも派遣に登録するしかありませんでした。すでに長年のバイト生活で何十万もの税金の滞納があり、持病の糖尿病は治療するお金も時間もありません。ですが糖尿病を放置していたことが派遣先に分かり雇い止めにあい、無保険状態で上宇部クリニックを受診せざるをえない状態になりました。

すぐに治療を開始しましたが、次の派遣先として紹介されたのは自転車で片道1時間半もかかる職場、それも重労働です。この職場での仕事は季節労働で、期間を過ぎれば雇い止めになります。Aさんは1月14日に初出勤し、2月末には3月で雇い止めの通知を受けてしまいます。

すぐに次の仕事を見つけたくても車のないAさんが選べる職場は

限られています。しかし、派遣会社が次の仕事が見つかるまで給料を払ってくれるわけではありません。雇い止めになった時のことを考えて休日もダブルワークをするAさん、派遣社員がダブルワークをするのは当たり前前だと話します。派遣では賃金の3割も派遣会社に支払うと言います。

こうした不安定な生活基盤が債務を生み、派遣労働がどんなに割の悪い労働でも早く次の仕事を紹介してもらわなければ生きていけない状況に追い込まれて、生活困窮の深みに埋もれていくのです。Aさんはこう言います。「いまの僕の目標は派遣ではなく、フルタイムパートになることです。これが50代の僕ができる限界でしょう」とAさんを代表に多くの派遣労働者が同じような悩みを抱えています。これは自己責任ではなく国がまねいた結果です。みんなで選挙に行きましょう



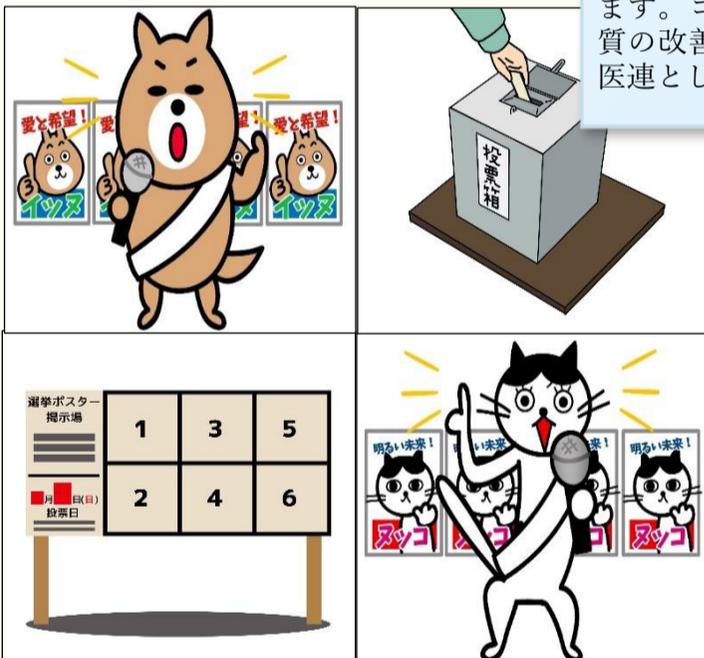
～寝具を集めています～

心のこもった品々を提供していただき厚くお礼申し上げます。このたびはメロスにストックしていた寝具が少なくなり、ご自宅で眠っている寝具を提供していただけなのかのお願いです。

こちら (333/580)
までご連絡ください。

県連ソーシャルワーク委員会報告

2022年8月から2023年2月に及ぶ7波、8波の大流行では、県が示した45病院688床のコロナ受け入れ医療機関では到底患者をまかないきれず、多くの一般病院や高齢者施設で感染患者の大量「留め置き」が生じ、大混乱の中での死亡者も相次ぎました。数少ない発熱患者対応診療所には受診者の行列ができるほどでしたが、陽性と判明しても紹介先がありませんでした。やむなく自宅療養した人の中でも悪化し死亡する人がいました。そういう経験のあとで 2023年1月27日に政府は5月8日からの「5類」化を発表しました。受け入れ医療機関や発熱外来の設置が今後どうなるかわからず、また患者の窓口負担無料がどのようになくなるかも明確ではありません。7波、8波の経験は、これとは逆のことをすべきだということを教えています。コロナ受け入れの入院、外来の拡大、その質の改善の準備こそが重要です。民医連として県との懇談、要望提出が急がれます。



「その言葉を聞いて、
もう、日本は終わった
と思いました。」

私はお金持ちじゃない私たちが
どんなに苦しんでいるのか、
もっとみんなに知ってもらい
たいです」

<30代女性Aさん>

Bさんは政府が企業に従業員の賃金上を呼びかけているのに、むしろ大きな不安を感じています。Bさんは病気があって短時間しか働けない24時間営業スーパーのパートタイマーです。

正職員ではありませんが職場のみんなのことを心配しています。ずっと以前から会社は営業不振が続き人件費削減に動いています。正社員の補充はなく雇用保険負担の必要ない短時間パートばかりが増えていきます。短時間のパートタイマーはそれだけでは生活ができないので夜勤労働をした後に昼間は別の仕事をするのが当たり前になっているとBさんは教えてくれました。

Bさんは仕事仲間たちとこんなことを話しています。「多くの企業が不景気で経営に困っているのに賃金を上げろと言われたら従業員を減らすしかない。短時間のパートが増えて、2つも、3つも、仕事を掛け持ちしないと生きていけないような人を増やすだけ。子どもがほしくてもこんなじゃ生めない。もう日本は終わったと思いました」。Bさんの言葉は多くの非正規雇用の方々の思いを代弁しています。みんなで選挙に行きましょう。